

分 野 (2) 気管支ぜん息・COPD患者の健康回復に関する調査研究

研 究 課 題 名 : 就学期の患者を対象とする新たな健康相談、健康教育のあり方

申 請 課 題 名 : 就学期の患者を対象とする新たな健康相談、健康教育のあり方に関する研究

調査研究代表者氏名: 小 田 嶋 博

評価コメント

- ・なかなか困難である学校との連携を確立し、色々と対応された努力を高く評価したい。
- ・長年、一定の学校とコミュニケーションを維持し調査を続けて来たその努力は評価できる。
- ・ほぼ所期の目的が達成されたと考えられる。
- ・小学校、中学校、高等学校に個別化したプログラムの展開は評価できる。
- ・小学校と高等学校に対する介入の仕方は整理された。
- ・学校での指導方法と効果が、小学校、中学校、高校で異なることを明らかにしており、指導する際の重点の置き方が示されている点が重要と思われる。
- ・中学校における喘息、アナフィラキシー等への治療・管理等への教育と受動喫煙についての教育を行った。高校生におけるアレルギー疾患患者への教育を施行した。
- ・家庭や街中での喫煙による受動喫煙の影響は、社会的問題であり、中学生集団でその実態と介入効果を調査研究することは重要である。
- ・就学期患者全体に対しての健康相談、健康教育のあり方の提言を出してほしい。
- ・自己管理のもっとも困難な世代における患者指導、教育に関して、小学校・中学校・高校を対象に各分担研究者が独自の研究を実施しているが、各々の研究はそれなりの成果を上げているが、研究課題全体としてのまとまりには、やや欠けているのではないか。
- ・今後はこれをいかにして広く普及、活用してもらうかが重要な課題である。その点は御配慮願いたい。
- ・学校職員、生徒、家族が同じ知識を有し、教育委員会が事業を立ち上げ、学校での事業展開となるのが望ましいのかもしれない。またこの方式の全国展開をどのようにしてゆくのかも検討してほしい。
- ・今後は、これまでの知見を、さらに広範な地域に拡大することが望まれる。
- ・今後は各地区で展開していくにあたって、どのように導入していくかが大きな課題である。
- ・これまで積み重ねて来た成果を、今後、学校の保健事業に還元し、永続性のある患者教育を実効性のあるものにすることが大きな課題である。